

親子のミカタ

- 今回のテーマは、ズバリ、「親子のミカタ」。
- 今号では、自らの子育て経験を生かして、親子で楽しめるイベントや親学講座の運営など、身近な地域で家庭教育支援のボランティア活動を行っている家庭教育支援活動者の方々に、自身の子育てや支援者としての経験をもとに、「親子のミカタ」についてお話を伺いました。
- 皆さんの家庭教育の参考にしていただければ幸いです。

『家庭教育支援活動者』って…



こんにちは。進行係の生涯学習課・家庭教育支援担当の“わかさん”です。まず、本日より一緒にトークをしていただく方をご紹介します。

家庭教育支援活動者の“かじちゃん”です。



同じく支援活動者の“まゆちゃん”です。



まず初めに、皆さんの活動について、簡単に教えてください。



子どもの家※などで、親子を対象に、絵本の読み聞かせや簡単ものづくり教室などを行っています。ものづくりのとき、親はものづくりを行い、その間、子どもと一緒に作ったり親の近くで遊んだりしています。

子育て中、特に子どもが小さいと、親子だけの時間が多くなりがちです。ほんの少しの間でも、子育て以外のことに集中する時間を過ごしてもらえたらなと思います。気分転換にもなりますし、大切だと思います。

牛乳パックを使った“からくり箱”



製作にちょっとコツが必要ですが、イラストの場所を工夫すると、遊び方にも変化が出てきます。



※子どもの家…宇都宮市では小学校内などにある55か所の「子どもの家」で、乳幼児と保護者の方に遊びと交流の場を提供しています。

転入してくる方も多いまちなので、なかなか時期を同じく子育てをしている家庭に会うのがむずかしいことも…。親子を対象にしたものづくり教室って、ある意味、「子どもを通して知り合いが増える場所」にもなっていると思います。



確かに。「子育てするなら宇都宮」と誇れるくらい支援が充実していますが、講座は、そのきっかけの1つとしても大切ですね。



それから、子育ては“じゃんぐり(順繰り)”だと思っています。『自分がしてもらったこと、助けてもらったことを、次の人につたえていく』それが、“じゃんぐり”のつながり。今は私が、「つたえる」番かなと思っています。



ところで、「ミカタ」って…『味方』?『見方』もあるような…?

